

平成28年度 全国学力・学習状況調査

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

✖ 本体調査

調査実施日：4月19日（火）

- 調査の目的**
- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 - ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 - ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容 ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
●身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ●実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能 など	●知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ●様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

○小学校（児童質問紙は、3時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	
国語A（20分）、算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	児童質問紙（20分程度）

○中学校（生徒質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	生徒質問紙（20分程度）

全問題については、 (<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>) を参照。

[illegible]

- (正答率 34.9%)

(1) 健治さんの学校では、新入生歓迎会のために、体育館で部活動紹介の映像を流します。映像は、プロジェクターでスクリーンに映し出します。そこで、健治さんはプロジェクターの置き場所を決めるために、プロジェクターについてインターネットで調べました。

健治さんが調べたこと

投影距離 (m)	投影画面の大きさ		
	高さ(m)	幅(m)	面積(m^2)
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

- ☐ ① 投影画面の大きさは、投影距離によって変わる。
- ☐ ② 投影画面の形は、固定されて、いつも長方形になる。
- ☐ ③ 投影画面の高さや幅は、投影距離に比例する。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 投影距離を x m、投影画面の高さを y mとすると、 y を x の式で表しなさい。

(2) スクリーンの高さは4.8m、幅は5.6mです。投影画面を、スクリーンからはみ出ないようにして、できるだけ大きく映し出すためには、投影距離を何mにすればいいですか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 5m
イ 6m
ウ 7m
エ 8m

(3) 健治さんは、映像が暗く見えにくいのではないかと気になりました。しかし、プロジェクターの光源の明るさを覚えることはできません。そこで、映像の明るさについて調べると、映像の明るさと投影画面の面積の関係は、次の式で表されることがわかりました。

$$\left(\frac{\text{映像の明るさ}}{\text{明るさ}}\right) = \left(\frac{\text{プロジェクターの光源の明るさ}}{\text{光源の明るさ}}\right) \div \left(\frac{\text{投影画面の面積}}{\text{面積}}\right)$$

このとき、映像の明るさを定数にするにはどうすればいいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しい理由を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。

ア 投影画面の面積を3倍にする。
イ 投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にする。

- (正答率 (1) 30.6% (2) 35.5% (3) 12.3%)

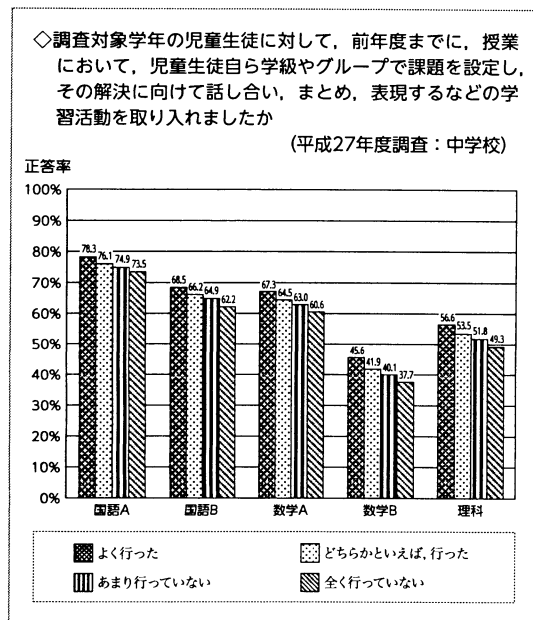
❖ 調査結果等の集計・分析・提供

集計・分析

◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表

◇児童生徒の学習環境や生活習慣、学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の相関関係を分析、公表

▼公表する調査結果の例



提供

◇各教育委員会、学校に以下の調査結果を提供

- ・児童生徒の正答数分布図
- ・設問別正答率・無解答率、類型別解答状況
- ・質問紙調査の結果
- ・各児童生徒に提供する「個人票」 など

▼「個人票」のイメージ



❖ 経年変化分析調査

調査の目的 国全体の学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる。

調査対象 無作為に抽出された国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年

全国で小学校400校程度、中学校500校程度を無作為に抽出
(全国で平均正答率が95%の確率で誤差2.5%以内となるよう抽出率を設定)

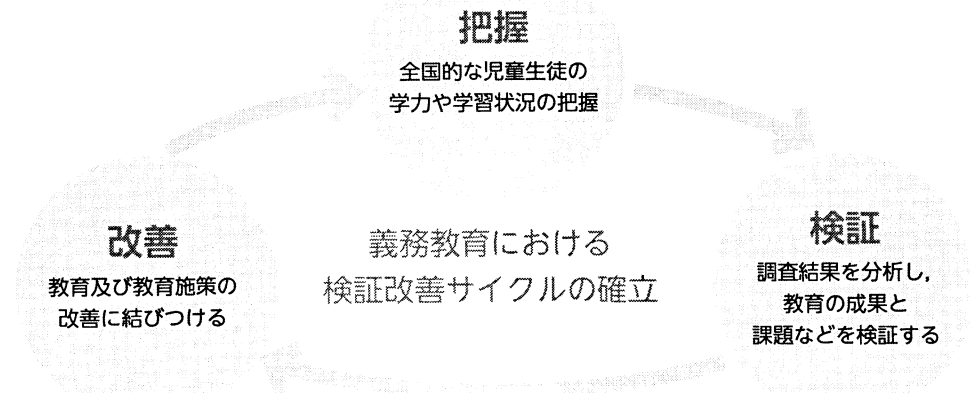
調査実施日 平成28年5月16日(月)から6月30日(木)の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な日時

調査内容 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・各学校はいずれか1教科を1単位時間(小学校40分、中学校45分)で実施
- ・主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題で構成

※調査問題等は原則非公開

✕ 調査結果の活用



国	教育の改善に向けた全国的な取組を推進	(例) 学習指導要領の改訂, 各種施策の検証・改善, 教員の配置等への支援, 教育委員会や学校における改善の取組への支援 など
教育委員会	域内の教育の改善に向けた取組を推進	(例) 教員の配置等の工夫, 教員研修の充実, 学習指導等の改善のための資料の作成, 保護者や地域と連携した取組 など
学校	個々の児童生徒の課題に応じた教育指導の改善に向けた取組を推進	(例) 課題を踏まえた授業改善の取組, 校内研修の充実, 家庭における学習習慣や生活習慣の確立に関する保護者への働きかけ, 放課後等における補充学習の実施 など

◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後, 各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況, 課題等を把握するとともに, それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したもの。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに, 調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるように作成したもの。各問題について, 解答類型と反応率, 分析結果と課題, 学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

■授業アイデア例

各学校において, 今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため, 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて, 授業の改善・充実を図る際の参考となるよう, 授業のアイデアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ

平成19～22年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し, とりまとめた資料。

(概要)

- 各教科の領域等ごとに, 児童生徒の「成果」と「課題」を整理
- 特に「課題」については, 児童生徒一人一人の学習内容の着実な定着を目指して, その解決に向けた詳細な分析を行い, 学習指導の改善・充実の参考となるポイント等を記載

■全国学力・学習状況調査の結果を活用した実践研究の成果報告書

調査結果から明らかになった課題に対して, 教育委員会, 学校等が連携しながら学校の教育活動等の改善に取り組んだ実践研究の概略等を掲載した報告書。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会, 学校等の教育活動や, 教育施策の一層の改善を図るため, 大学等の研究機関の専門的な知見を活用し, 高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

(分析例)

- 家庭の社会経済的背景と学力の関係に関する調査研究
- 良好な結果を示した教育委員会・学校における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究

これらの資料は,
文部科学省 HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/
国立教育政策研究所 HP
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
に掲載されています。